

今、ロシアの侵攻により、世界の注目が集まっているウクライナ。その現状や文化について、ウクライナ出身の伝統工芸作家であるテチャーナ・ソロツカさんにお話を伺いました。



ウクライナ

面積 603,700km²
人口 4,159万人
首都 キーウ
言語 ウクライナ語、
その他ロシア語等

1 日本に来てとまどったことは？

初来日の驚きは湿度の高さでした。9月でしたが、大陸のさらっと乾燥したウクライナと違い、飛行機を降りた瞬間、「息がでない」と思ったほど、湿った熱い空気が全身にまとわりつく感覚になかなか慣れませんでした。

2 ウクライナの人々にとって、今の戦いは？

この戦争は、ウクライナ人にとってアイデンティティーを守るための戦争です。ロシアによるプロパガンダに屈してしまえば、私たちの文化や言語は失われてしまうでしょう。それはつまり、ウクライナの存在自体の消失を意味します。私たちはウクライナと自分自身のアイデンティティーを守るために「勝つしかない」のです。



避難しているウクライナの人々

3 長年お住まいの川崎はどんな街？

川崎市は、外国人が生活するための手続き全部がスムーズですね。また、自然豊かで公園が多く、子ども連れの家族が多いのもいいです。家族や友達と公園へ出かけ、自然を楽しむウクライナの習慣を日本でも続けられています。

◀テチャーナ・ソロツカさん

4 ウクライナの美味しいものと言えば？

有名なのは「ボルシチ」ですね。これはウクライナ発祥なんです。他にも「ヴァレニキ」という水餃子や「ゴルブツィ」というロールキャベツも美味しいですよ。



ゴルブツィ

5 テチャーナさんが作る「プーサンキ」とは？

卵の殻に「ろうけつ染め」^(注)で美しい模様を描いたウクライナの伝統工芸品です。

ソ連時代は固有の言葉や文化は禁じられていたので、ウクライナでは独立後30年かけて、自分たちの歴史や文化を探し出し、研究を続け、ウクライナ語も積極的に使うようになりました。私も子どもの頃は知らなかった「プーサンキ」に出会い、その美しさに感動して研究し始めました。現在、ウクライナでは小学校課程で作り方を習うほど、伝統工芸として親しまれています。祈りを込めて描くので、お守りとして誕生日やお見舞いの品にもよく選ばれます。



プーサンキ



卵自体をまわすのが蜜蝋できれいな線を描くコツ

注：染めない部分を蜜蝋で描いて染色した後、蜜蝋を溶かして模様を表す技法

藤原編集ボランティアの感想

「プーサンキ」の手描きとは信じられないほど美しい幾何学的な模様と発色に魅了され、ネットでは知ることのできないウクライナを知る機会となりました。

そして、目にしない日はないウクライナ関連の報道。私自身、生きている間に戦争が起きるなんて考えもしませんでした。遠い国で起きている悲劇を目にし、私たちも人道的支援を通じて今後も関わり続けなければならないと感じました。今ある支援の動きを一過性のブームのように過ぎ去らせてしまわないために、まず「知ること」から始めてみませんか？



藤原編集ボランティアとソロツカさん

6 知り合いがいなくても、日本へ避難したいウクライナの人はいいますか？

います。既にいらした方もいますし、SNS上には、来日を希望して情報を集めている人が多いです。

日本は住居の準備や日本語学習のサポートが充実しているだけでなく、近所の方々の支えも感じられる、外国人にとって住みやすい国です。ウクライナ人は働くことが大好きなので、言葉の壁はあるかもしれませんが、働き、活躍する場があると嬉しいと思います。

7 今、日本人にできることは？

既に日本からたくさんの支援を受けていて、それに対して深く感謝しています。今回、川崎市国際交流センターで開催していただいた「ウクライナ伝統工芸展&トークイベント」にも、近所の方をはじめ、多くの人に力を貸していただきました。ウクライナという国を知ってもらい、今後もあたたかい支援をいただければとても嬉しいです。

「ウクライナ雑感」川野辺編集ボランティア

「ウクライナ」という言葉で思い浮かぶのは、モスクワの「ホテル・ウクライナ」。50年前、社会人2年目の初出張で3週間滞在しました。モスクワ川に面したスターリン様式のゴシック建築で、キーウ行きの始発駅もそばにあります。当時、日本人はほとんど皆、このホテルに宿泊させられ、日本企業の駐在事務所も多く入居していました。そこでの珍談奇談は、堀田善衛の小説『19階日本横丁』に詳しく描かれています。建設された1950年代、ロシア人はこのホテルにどんな思いを込めたのでしょうか。

テチャーナさんは新聞記者からウクライナへの思いを聞かれると、しばらく沈黙の後、言葉を選びながら「ウクライナのための支援、正しい情報を伝えるために頑張りたい。また文化・歴史を伝える義務がある」と心境を語りました。華奢な姿から発せられる言葉には強い意志を感じました。

独立以来、2004年のオレンジ革命、2014年のマイダン革命を経て今日まで、ウクライナはロシアからの自立、民主化へと舵をきってきました。今年はスターリンのウクライナにおける人為的大飢饉ホロドモールから90年というのも何か象徴的です。

私たちが苦境にあるウクライナに出来ることは何があるのでしょうか。「無関心や傍観が、力あるものの勝手にさせてしまう」。小さなことからでも行動していきたいと思います。